

生徒が感じる運動部活動の楽しさと顧問の意識差について
— 運動部生徒と顧問の意識調査から —

山形県立酒田西高等学校
高 橋 正 知

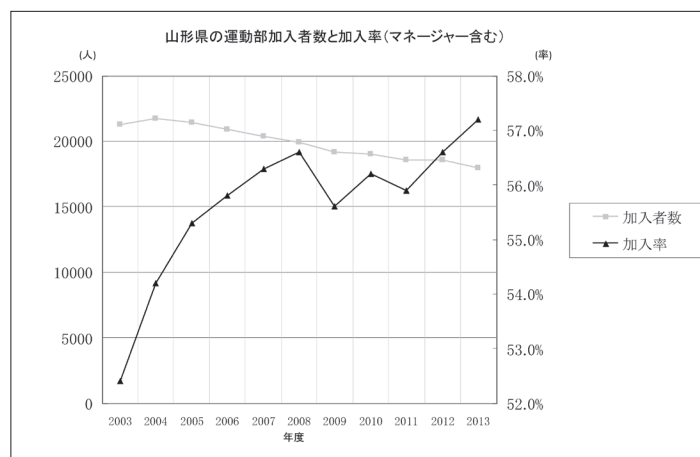
1 はじめに

運動部活動は、学校教育の一環として、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒の自主的、自発的な参加により、顧問の教員をはじめとした関係者の取り組みや指導の下に運動やスポーツを行うものであり、各学校で多様な活動が行われ、我が国独自の発展を遂げてきた。現在の運動部加入率は 43.8%（H26）であり、多くの生徒の心身にわたる成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たし、様々な成果をもたらしている。

本県高体連の調査によれば、近年の少子化による生徒数の減少はあるものの、ここ数年の運動部活動加入率は 55.3%（H26）と増加傾向にあり、全国的に見られる運動部活動離れとは一線を画す喜ばしい結果が続いている。

また、本県スポーツ界において、高校生運動部活動への期待は非常に大きく、特に国民体育大会においては、全入賞数 47 のうち少年種目が 29 であり、得点割合でも 79.3%（H26）と大きなウエイトを占めている。このことから、本県スポーツ界の発展には、成年選手の人材確保やレベルアップは当然のことながら、今後も運動部活動のより一層の活性化が期待されている。

そこで本研究では、生徒が運動部活動において、どのようなことに楽しさを感じたり、悩んだりしているのかなど、平成 16 年度の本研究部で行った「部活動の楽しさと部活動加入率の関わり」と比較をしながら現状を把握する。また、生徒が感じる楽しさに対し、顧問はどのような意識で指導しているのかを明らかにすることにより、生徒と顧問の人間関係をより円滑にし、更なる運動部活動活性化の一助になると考え調査・研究を行うこととした。



2 調査の方法

(1) 方法 : 質問紙によるアンケート調査（無記名方式）

平成 16 年度「部活動の楽しさと部活動加入率の関わり」で調査した 27 の質問項目のアンケート調査（H16：回答総数 5439 名）

(2) 期間 : 平成 26 年 11 月上旬～ 11 月末日

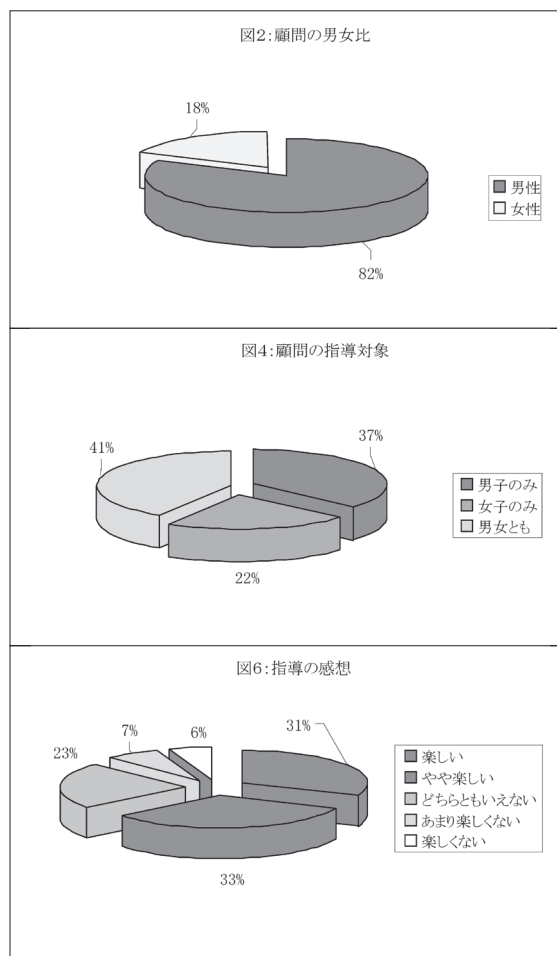
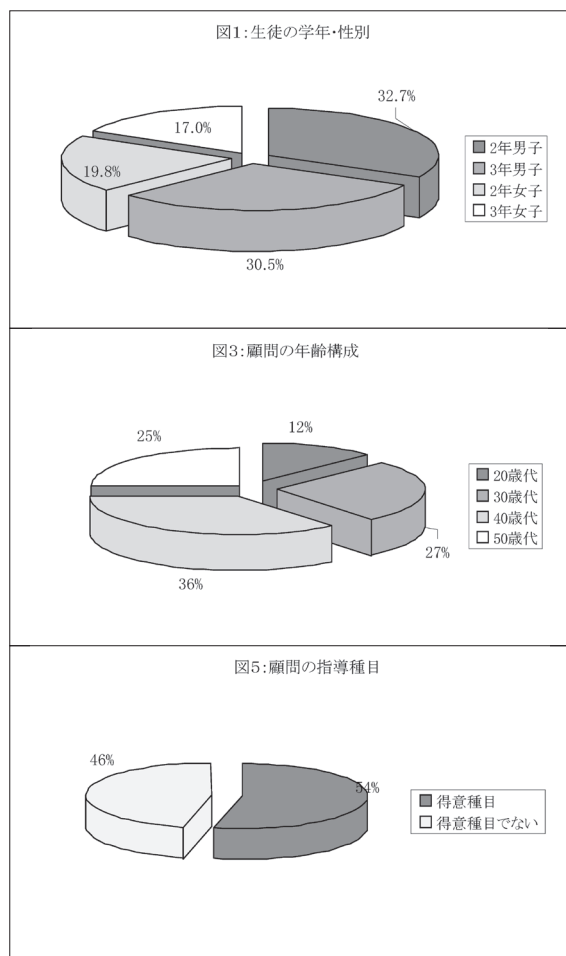
(3) 対象 : 県内全高等学校（全日制）2～3 年運動部生徒（マネージャーを含む）・運動部顧問

依頼数 : 生徒 9070 名・顧問 1603 名

回答総数：生徒 7364 名（回答率 81.2%）・顧問 1003 名（回答率 62.6%）

調査 担当地区	生徒		顧問	
	送付数	回答数	送付数	回答数
村山	2268	1858	609	312
最北	1376	1164	235	167
置賜	2475	1919	324	245
田川	1828	1351	264	170
飽海	1123	1072	171	109
合計	9070	7364	1603	1003

生徒・顧問の属性（図 1～6）



3 調査内容と結果

生徒からの回答は、以下 27 の質問項目に対し「楽しい」と感じるかどうかを 5 段階に分けて、「楽しい」「やや楽しい」を併せて比較を行った。

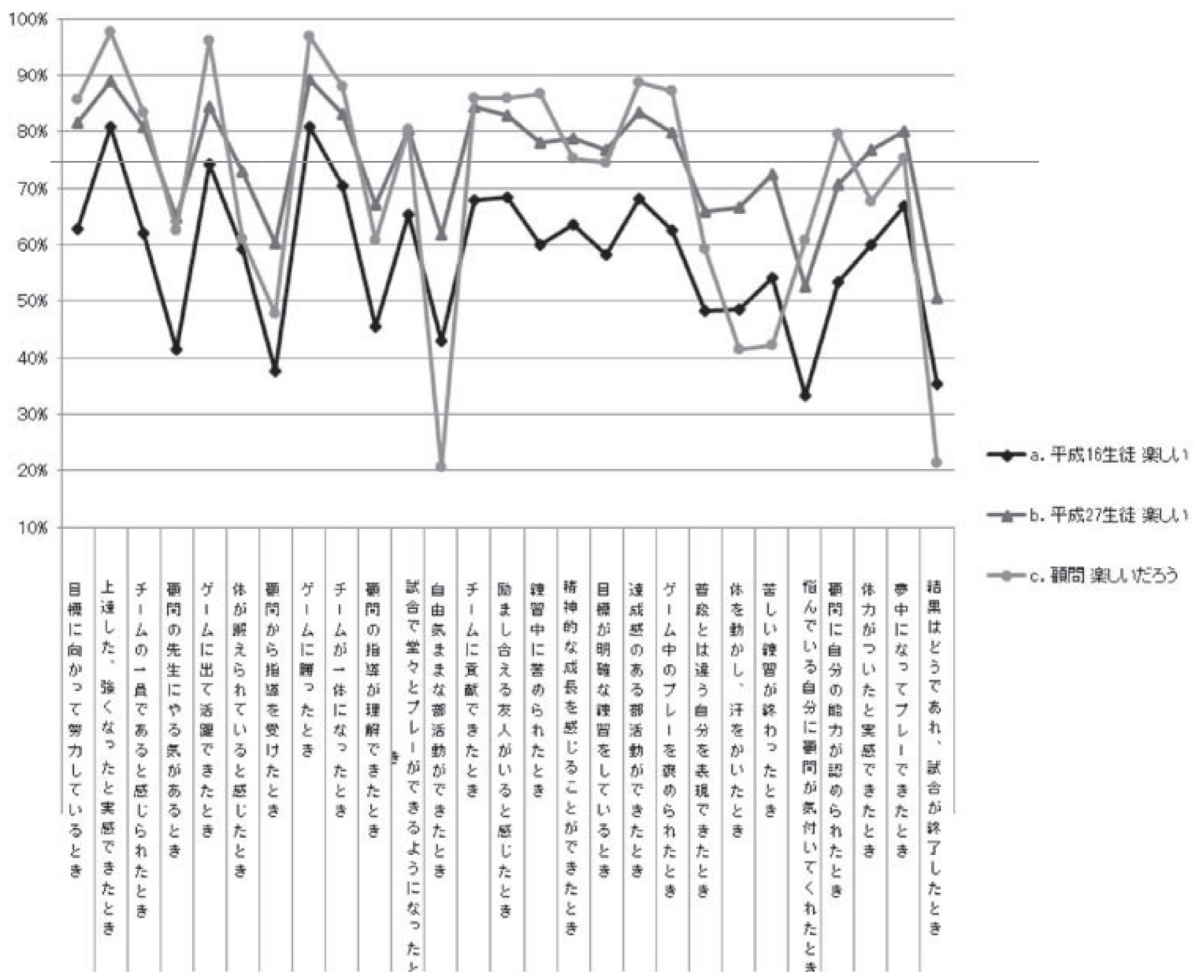
＊ 5 段階：「楽しい」「やや楽しい」「ふつう」「あまり思わない」「思わない」

顧問からの回答は、以下 27 の質問項目に対し、生徒が「楽しいと感じていると思う」かどうかを 5 段階に分けて、「楽しいと感じていると思う」「やや楽しいと感じていると思う」を併せて比較を行った。

＊ 5 段階：「楽しいと感じていると思う」「やや楽しいと感じていると思う」「ふつう」「あまり楽しいと感じているとは思わない」「楽しいと感じているとは思わない」

また、A は平成 16 年度の生徒と平成 27 年度生徒の比較で、B は平成 27 年度の生徒と顧問の比較結果である。

項目	質問	a. 平成16生徒		b. 平成27生徒		c. 顧問		A	B
		楽しい	順位	楽しい	順位	楽しいだろう	順位	b-a	c-b
								差	差
1	目標に向かって努力しているとき	62.7%	11	81.5%	8	85.6%	10	18.8%	4.1%
2	上達した、強くなったと実感できたとき	80.8%	1	89.0%	2	97.7%	1	8.2%	8.7%
3	チームの一員であると感じられたとき	61.9%	13	80.7%	9	83.3%	11	18.8%	2.6%
4	顧問の先生にやる気があるとき	41.4%	24	64.7%	23	62.5%	18	23.3%	-2.1%
5	ゲームに出て活躍できたとき	74.1%	3	84.5%	3	96.1%	3	10.4%	11.6%
6	体が鍛えられていると感じたとき	59.3%	16	73.0%	17	61.0%	19	13.7%	-12.0%
7	顧問から指導を受けたとき	37.6%	25	60.2%	25	47.7%	23	22.6%	-12.6%
8	ゲームに勝ったとき	80.8%	1	89.3%	1	96.8%	2	8.5%	7.5%
9	チームが一体になったとき	70.3%	4	83.0%	6	87.9%	5	12.7%	4.9%
10	顧問の指導が理解できたとき	45.5%	22	67.1%	20	60.7%	20	21.6%	-6.4%
11	試合で堂々とプレーができるようになったとき	65.2%	9	80.2%	10	80.3%	12	15.0%	0.1%
12	自由気ままな部活動ができたとき	42.9%	23	61.7%	24	20.6%	27	18.8%	-41.1%
13	チームに貢献できたとき	67.8%	7	84.4%	4	85.9%	9	16.6%	1.5%
14	励まし合える友人がいると感じたとき	68.4%	5	82.9%	7	86.0%	8	14.5%	3.1%
15	練習中に誉められたとき	59.9%	14	78.0%	14	86.8%	7	18.1%	8.8%
16	精神的な成長を感じることができたとき	63.5%	10	78.7%	13	75.2%	14	15.2%	-3.5%
17	目標が明確な練習をしているとき	58.1%	17	76.8%	16	74.5%	16	18.7%	-2.2%
18	達成感のある部活動ができたとき	68.2%	6	83.3%	5	88.6%	4	15.1%	5.3%
19	ゲーム中のプレーを褒められたとき	62.6%	12	79.8%	12	87.1%	6	17.2%	7.4%
20	普段とは違う自分を表現できたとき	48.2%	21	65.7%	22	59.3%	22	17.5%	-6.4%
21	体を動かし、汗をかいいたとき	48.5%	20	66.6%	21	41.5%	25	18.1%	-25.1%
22	苦しい練習が終わったとき	54.2%	18	72.4%	18	42.2%	24	18.2%	-30.1%
23	悩んでいる自分に顧問が気付いてくれたとき	33.3%	27	52.5%	26	60.7%	21	19.2%	8.2%
24	顧問に自分の能力が認められたとき	53.4%	19	70.5%	19	79.6%	13	17.1%	9.1%
25	体力がついたと実感できたとき	59.9%	14	76.8%	15	67.6%	17	16.9%	-9.2%
26	夢中になってプレーできたとき	66.9%	8	80.1%	11	75.1%	15	13.2%	-5.0%
27	結果はどうであれ、試合が終了したとき	35.2%	26	50.7%	27	21.3%	26	15.5%	-29.4%
平均		58.2%		74.6%		70.8%		16.4%	-3.8%



4 考察

A：平成 16 年度生徒と平成 27 年度生徒の比較

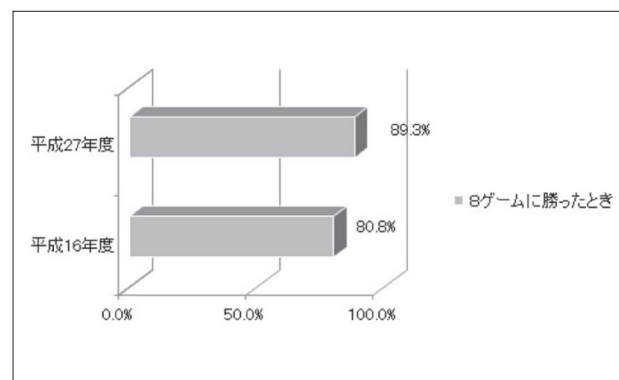
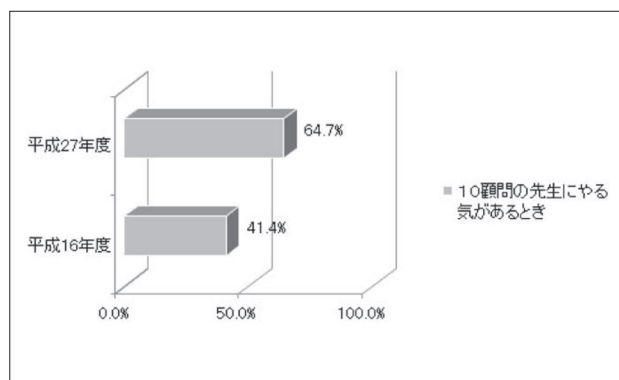
＊以下平成 16 年度生徒は平成 16 年、平成 27 年度生徒は平成 27 年と標記。

今回のアンケート調査の結果、平成 16 年と平成 27 年の比較では、平成 27 年は「楽しい」と感じる割合の平均が 16.4% 上昇した。

また、平成 16 年の方が、最大値と最小値の差が 47.5% と大きいことが分かった。(H27：38.6%)

特徴的な結果が出た質問項目は、「顧問の先生にやる気があるとき」平成 16 年は 41.4%、平成 27 年が 64.7% で 23.3% の増。「顧問から指導を受けたとき」平成 16 年は 37.6%、平成 27 年が 60.2% で、22.6% の増。「顧問の指導が理解できたとき」平成 16 年は 45.5%、平成 27 年が 67.1% で、21.6% の増と、いずれも「楽しい」と感じている割合はそれ程高くはないが、顧問との関わりに関する項目で大きく増加した。このことから、今の生徒たちは顧問により強く関わって欲しいと思うようになってきている。

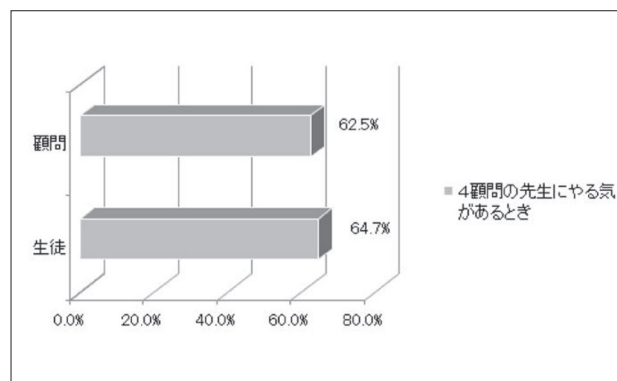
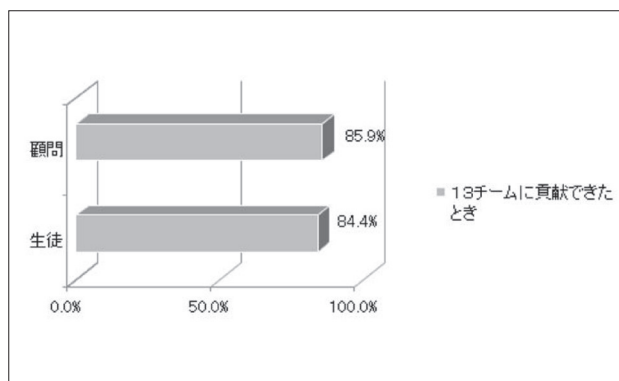
その他にも「上達した、強くなったと実感できたとき」平成 16 年は 80.8%、平成 27 年が 89.0%。「ゲームに出て活躍できたとき」平成 16 年は 74.1%、平成 27 年が 84.5%。「ゲームに勝ったとき」平成 16 年は 80.8%、平成 27 年が 89.3%。「チームが一体になったとき」平成 16 年は 70.3%、平成 27 年が 83.0% といずれの年も「楽しい」と感じている割合が高かった。



学年差について比較してみると、平成 16 年、平成 27 年のいずれの年も 2 年生より 3 年生が、「楽しい」と感じている割合が高かった。これは「楽しさ」が部活動を継続する要因になっていることが分かる。2 年生の方が高かった項目は「体が鍛えられていると感じたとき」「普段と違う自分を表現できたとき」「体を動かし、汗をかいたとき」であった。また、男女差については平成 16 年は男子より女子が、平成 27 年は女子より男子の方が「楽しい」と感じる割合が高く、全く正反対の結果であった。特徴的なこととして、27 の全ての項目で女子より男子が「楽しい」と感じる割合が高かった。

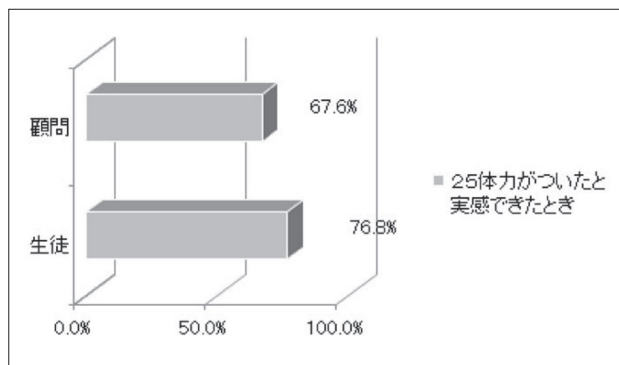
B：平成 27 年度の生徒と顧問の比較 ＊以下平成 27 年度の生徒は生徒と標記

生徒と顧問の比較では、「目標に向かって努力しているとき」生徒は 81.5%、顧問が 85.6%。「チームの一員であると感じられたとき」生徒は 80.7%、顧問が 83.3%。「試合で堂々とプレーができるようになったとき」生徒は 80.2%、顧問が 80.3%。「チームに貢献できたとき」生徒は 84.4%、顧問が 85.9%。「励まし合える友人がいるとき」生徒は 82.9%、顧問が 86.0% と「楽しい」と感じている割合が高く、双方とも感じ方にも隔たりなかった。



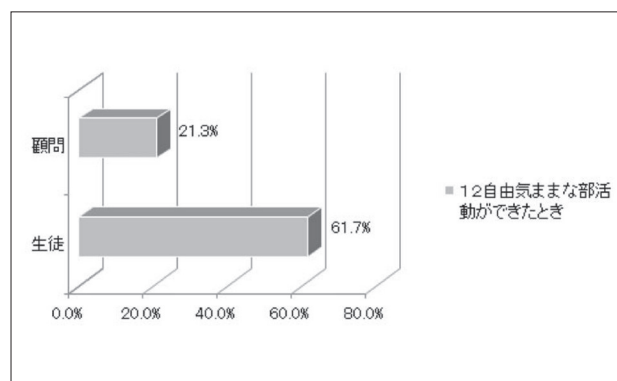
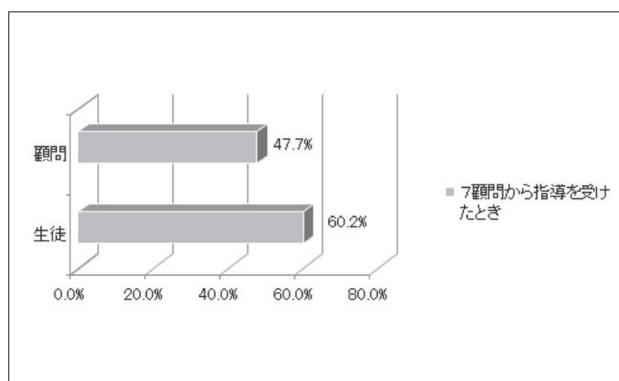
また、「顧問にやる気があるとき」生徒は 64.7%、顧問が 62.5%。「精神的な成長を感じることができたとき」生徒は 78.7%、顧問が 75.2%。「目標が明確な練習をしているとき」生徒は 76.8%、顧問が 74.5%と「楽しい」と感じている割合はそれ程高くはないが、双方の感じ方に隔たりがなかった。

その反面、「上達した、強くなったと実感できたとき」生徒 89.0%、顧問 97.7%。「練習中に褒められたとき」生徒は 78.0%、顧問が 86.8%。「顧問に能力が認められたとき」生徒は 70.5%、顧問が 79.6%。「体力がついたと実感できたとき」生徒 76.8%、顧問 67.6%と双方の感じ方に少し隔たりがあった。



「ゲームに出て活躍したとき」生徒は 84.5%、顧問が 96.1%。「体が鍛えられていると感じたとき」生徒は 73.0%、顧問が 61.0%。「顧問から指導を受けたとき」生徒は 60.2%、顧問が 47.7%で双方の感じ方に隔たりがあり、更に「体を動かし汗をかいたとき」生徒は 66.6%、顧問が 41.5%。「苦しい練習が終わったとき」生徒は 72.4%、顧問が 42.2%。「結果はどうであれ試合が終了したとき」生徒は 50.7%、顧問が 21.3%。「自由気ままな部活動ができたとき」生徒は 61.7%、顧問が 20.6%と双方の感じ方に大きな隔たりがあった。

生徒は、体を動かすことや体を鍛えること、練習や試合を乗り越えたことに関して顧問が考えている以上に「楽しさ」を感じていることが分かった。その他、顧問は教育的な配慮から褒めることを意識して指導しているところが見られるが、顧問が思っているほど生徒は「楽しい」と感じてはいないようである。



5 まとめ

やはり部活動の楽しさは「上達した強くなったと実感できたとき」、「ゲームに出て活躍できたとき」、「ゲームに勝ったとき」といったものが上位を占め、勝つことや上達することが「楽しさ」の原点であることが再確認できた。また、「顧問の先生にやる気があるとき」、「顧問から指導を受けたとき」、「顧問の指導が理解できたとき」等、顧問との関わりに関する項目が大きく増加したことから、現在の生徒は顧問により深く関わって欲しいと思っており、顧問の存在意義も大きく運動部活動を運営する上で重要なものとなっていると思われる。今後も生徒とのコミュニケーションをより密にした取り組みが大切になってくる。

生徒と顧問の比較では「目標に向かって努力しているとき」、「チームの一員であると感じられたとき」、「試合で堂々とプレーができるようになったとき」等、生徒、教師双方で「楽しい」と感じる共通項目はあるものの、大きく隔たるものもあり、「体が鍛えられていると感じたとき」、「苦しい練習が終わったとき」、「結果はどうであれ試合が終了したとき」等、顧問が思っている以上に生徒たちは達成感を味わっており、運動部活動自体に「楽しさ」を感じていると思われる。上記のように、生徒たちの運動部活動に関する「楽しさ」は変化しており、私たち顧問は意識を変えていく必要がある。

参考文献及び資料

運動部活動の在り方に関する調査研究報告書（運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議）